

## 入選

### テーマ：医療と福祉、わたしの体験 「経験から得た思い」

宮城県・常盤木学園高等学校2年 櫻井襟香

私の夢は、理学療法士が作業療法士になることです。私がこの職業に興味を持ったきっかけがあります。

一番のきっかけは、私が小学一年生になってすぐに父が脊髄梗塞になり右半身が不自由になってしまったことです。しかし、父は一生懸命リハビリをして私達家族のために、体が不自由ですが毎日仕事をしています。父は自動車電装整備の仕事をしているので車の下にもぐって作業をしたり、手先の技術がなければなりません。体が不自由でも父はそれを全てこなしています。そんな父の仕事姿を見て、素直に「カッコいいな」と思っています。そして今では私の中で一番尊敬している人は父です。今でも周りから見れば体が不自由だと分かるくらいいハンを父は持っています。頑張っている自分の意志で仕事復帰したこと、そして仕事関係のたくさんの人から信頼されている父は本当にすごいなと思います。そんな父を私は誇りにも思っています。父が病気になった時、まだ幼かった私は父に何もしてあげることができませんでした。だからこそ、私が将来父にリハビリをしてあげて今よりもっと体が楽になって体が不自由だったことを忘れるくらい治してあげられたらいいなと思っています。そのためにも絶対に理学療法士が作業療法士になると強く心に決めています。

また、私自身も体が弱く、よく病院に通っています。病院先でエレベーターに乗ると、車いすに乗っている人、体が不自由な人、おじいちゃんおばあちゃんなどたくさんの方が乗ります。そこでいつも必ず最後に降りるのは自分と決め、乗っていた人が全員降りるまで扉をずっと開けています。そうすると、たくさんの方が口々に「ありがとう」と必ず言ってくれます。ちょっとしたことでも「ありがとう」と言われ

ると嬉しい気分にもなり、少しでもいろいろな人の役に立ててよかったなとも思います。この自分の行動でもっと人の役に立つことをしたい、感謝してもらえような人になりたい、直接「ありがとう」と聞けるような職業をしたいと思ったことも、自分の夢を見つめるきっかけになりました。

今、私が思っていることは私と同じような思いをする子がいなくなることです。これはどんなことかと言うと、父が倒れた時、遊んで欲しくても遊んでもらうことができませんでした。体が不自由になってからは父を心配して、一緒に遊ぶことを自分の心の中で抑え続けていました。このように感じている子ども達がいると思います。でも、これは子どもにとっても、親にとってもいけないことではないかと私は思います。子どもが親と一緒に遊ぶことは大事なことであり、体が不自由な人が子どもと一緒に遊ぶこともリハビリの一つになるのではないかと思います。だから、私は理学療法士が作業療法士になるからには、子どもと一緒に遊びながらできるようなリハビリをしたいと思っています。このようなりハビリをすることによって、体が不自由な人だけではなく家族と一緒にすることで、辛い思いを分け合えます。コミュニケーションがとれたり、病気の面だけでなく生活面なども支えられることができる良い機会になるのではないかと思っています。

このようないことが実現できる日が来て、世界中の人が少しでも平和に暮らしていけるようになればいいと思います。私自身もたくさんの人を笑顔にできるように、日々夢に向かい頑張っていきます。そして必ず、誰からも信頼される理学療法士が作業療法士になりたいです。